

### 3. 事故調査事例

#### 事例1 (第一種踏切)

平成26年9月2日(火)10時29分ごろ発生

#### 列車が接近している状況で、トラックが踏切内に進入して列車と衝突

概要：5両編成の特急列車は、A駅を10時10分に出発した。列車の運転士は、B駅を過ぎてから、速度が約115km/hになったところで力行運転から惰行運転とした。その後、踏切内に右側から進入してきたトラックを認めたため、非常ブレーキを使用するとともに気笛を吹鳴したが、間に合わず、列車は同トラックと衝突し、列車の1両目前台車全2軸が左に脱線した。

この事故により、トラックの運転者が負傷した。

#### 事故発生に至る経過

##### 列車運転士

踏切の手前にある閉そく信号機を過ぎたところで、踏切内に右側から進入してきたトラックを認めた。

非常ブレーキを使用するとともに気笛を吹鳴した。

##### トラック運転者

いつも自分が使用する会社のトラックに荷物を積み、配達先で荷物を全て下ろした。その後、復路を30分ほど運転して本件踏切に到達した。

10時29分ごろ

列車とトラックが衝突した

間に合わず、衝突し「ガシャーン」と凄い音がした。一瞬「フワッ」としてから「ガタガタガタ」と凄い揺れを感じたので、脱線したと気付いて防護無線を発報した。

いつも通っている道の途中にあるので、踏切の存在は知っていた。踏切警報機が点滅していることや、遮断かんが下りていることには気付かなかった。

#### 運転台付近に設置したカメラで撮影された映像



本件トラックの損傷状況

本件鉄道車両の損傷状況



#### 踏切付近からの列車方向の見通し



本件トラックの踏切進入時の列車方向の見通しを本件踏切付近から確認したところ、**見通しは良好であった**。また、本件踏切右側の道路には本件踏切の**見通しを支障するようなもの**はなかった。

#### 原因

本事故は、踏切警報機、踏切遮断機が正常に動作し、列車が本件踏切直前まで接近していたところに、トラックが遮断かんを折り曲げて進入したため、運転士が非常ブレーキを扱ったが間に合わず、列車とトラックが衝突した際、列車1両目の前面下部の台車近くまでトラックが入り込み、列車の先頭部を瞬間的に持ち上げたことにより前台車全2軸が左レールを越え、脱線したものと考えられる。

なお、本件踏切の踏切警報機等が動作しているにもかかわらず、トラックが踏切に進入した理由については明らかにすることはできなかった。

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。(平成27(2015)年9月17日公表)

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/railway/rep-acci/RA2015-7-1.pdf>